

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

税の上にある当たり前

人吉市立第二中学校

三年 新村 陽

二年前の七月四日、誰もそれを予想することはできなかつただろう。小学校の敷地から見えた景色に我が家はなかつた。

それから祖父母の家での生活が始まった。たまに、被害の大きさを物語る景色が目にする。橋のらんかんにがれきが引つ掛かり、ある所は、橋の中心部分が濁流に飲み込まれ、渡れない状態だった。今まで生きてきて、初めての大きな喪失感を覚えた。住む場所、使っている物、大好きな漫画、全てが私の元から無くなつていった。当たり前の日常が一瞬で壊れた。

それから二年後、租税教室が行われた。全校生徒で体育館に集まり、講師の方の話を聴く。私たちが商品を買って払う消費税。中学生の私たちが一番よく払い、身近な税の一つではないだろうか。また、国税、地方税、驚いたのはたばこ税という税だ。たばこ一箱五百円だとするとたばこ税は三百円も含まれているそうだ。そして、その税は、衛生費や、民生費、教育費などに利用されている。私たちの給食費が安く済んでいるのは、この教育費のおかげなのだ。また、七月豪雨による被災からの復興のための令和四年の支出は、四億三千万円が被災地復興推進事業に、二億三千万円が公営住宅用地取得事業に、一億円が災害公営住宅建設事業の解体経済として出され、くま川鉄道補助金が災害復旧費として一億三千万円が使われていると知った。「億」という単位がどれほどすごいかわか私には分からない。しかし、それらの金額のお金をたくさんの方が払ってくれたり、自分で出した税が一部となり、私の地域の復興を支えてくれているのだ。

私たちの生活を支える税は、名前も顔すら知らない人が払っている。しかし、そのおかげで「当たり前」と呼べる生活が成り立っている。税を誰も払わなくなれば、道路は荒れ、交通安全にもつながらなくなる。税は人の命すらも守ることにつながっている。税の大切さを実感した今、責任を持って向き合おうと思う。